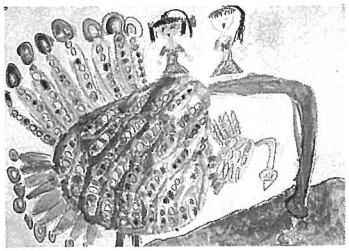
あつまれ みんなの 力作

4年
郡司 雅彦君

『山ねことどんぐり』

※森の中の山ねこを大きく描きました。色の塗り方も工夫しました。

1年
かわしま りささん



『くじゃく』

※くじゃくを大きく、また、赤ちゃんを描くのがむずかしかったです。

『絵をかく人』

5年
栗田 知克君

※腕の形や陰が難しかったです。後ろの棚の物がよく描けました。

『もうひとりのぼく』

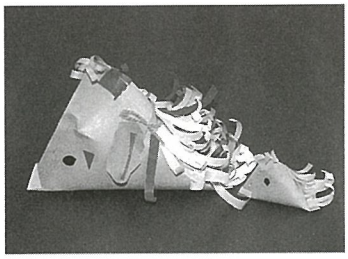
3年
椎名 ひろのぶ君

※体の形を友達と一緒にとったのがおもしろかったです。大きいので切るのが大変でした。

6年
土屋 寿子さん

※「はらい」や「はね」「とめ」「はぼう」に注意して書きました。

2年
内藤 彩子さん



『小鳥の親子』

※三角パックを使いました。背中の羽をカールさせ作るのが大変でした。

ひかり俳壇

柱背に見上げる独り十三夜　山崎 てい（二又）

〝孤独の生活に慣れました〟と述懐する作者ではあるが上五に孤愁を感じさせる。

酔えば歌うゴンドラの唄十三夜　鈴木 都根（橋場）

〝いのち短し恋せよ乙女〟十三夜の月光が禁断の扉を開かせたのか。青春に乾杯。

一番鶏安寝の里は霧の中　越川せつ子（篠本三区）

霧に包まれて末だ深い眠りにある集落。夜明け前の舞台、妻籠、馬籠宿を想わす。

暮早し老いの鈍さと夫の愚痴　鈴木とし子（宝米）

農村の働き手は殆んど高令となった。昔取った杵柄でもお互いに齢には勝てない。

秋袷最早不用と畳みけり　土屋 好（虫生）

もう着ることはあるまいと決めた作者の、決断力の潔さが中七に活写されている。

評者吟　十三夜天心に在り凶作地　椎名しげる

短評